

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社TNS クオリティ・オブ・ライフ古河支援教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日 ～ 令和7年 3月 24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4 月 2 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動によつての環境作り及び環境整備	・運動及び遊ぶスペースと、学習スペースをマットの色で分けている。また、パーテーションを用いて空間を区切り、個人やグループが活動に集中できるようにしている。 ・日頃からの清掃、整理整頓が行なわれている。	・宿題の時間において、終わった子と取り組んでいる子が同じ空間にいたので、宿題に集中して取り組める環境づくりが必要である。その為に運動(遊び)と学習エリアの再構成を行なう。 ・玩具や子どもたちが使用するものの等の消毒を徹底する。
2	活動プログラム及び支援内容の工夫	・活動プログラムにおいて、1年を通して様々な経験ができるよう、職員間で話し合いながら計画している。また、曜日ごとに通所する子どもの伸ばしたい力を考慮して療育内容を検討している。 ・子どもたちの苦手や特性を踏まえ、療育中に個別支援をしたり、教材を作ったりしている。	子どもたちの自己肯定感を高めながらできる活動内容の考案、及び支援方法の充実を図る。その為にも、職員間で子どもの様子や課題等を把握し、支援方法について共通理解を高める。

3	情報の発信・伝達	・サービス提供記録において、保護者に子どもたちの様子を分かりやすく伝えられるよう、内容及び写真の充実を心掛けている。 ・月に一度のお便りやSNS等の更新を通して、事業所の様子や活動の様子を発信している。	子どものできた事だけではなく、苦手な事や課題等も記載し、保護者との更なる情報共有を図る。
---	----------	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者及び職員間での情報共有	・子ども間でのトラブルを保護者に伝える際に、対応した職員ではない人が伝える場合、情報が不十分である。 ・保護者より口頭で伝えられた情報を職員が忘れてしまう。もしくは伝達が遅れてしまう。	・保護者に情報伝達した職員が、情報が不十分である等を感じた時には、対応した職員に再度電話やメール等で連絡を取るよう伝える。 ・保護者より伝えられた情報等は、その日のうちに全体又は施設長に共有する。また、保護者に必要に応じてメール等での再連絡の協力をお願いする。
2	・保護者同士の交流の機会を設ける。 ・事業所内での子どもたちの様子を間近で見学できる機会を設ける。	・保護者参加型のイベントが夏祭りしかない。 ・療育内容に関して、サービス提供記録での情報共有がほとんどである。	事業所内参観日を設け、保護者に事業所内での活動の様子をご覧になって頂くと共に、保護者同士での交流を持てるようにする。
3	非常災害時や防犯等に関する取り組みにおける情報の共有	・防災訓練や防犯訓練等を行い、サービス提供記録やお便り等で情報発信を行っているが周知されていない。また、該当曜日に通所している子を中心に取り組んでいるため、偏りがある。 ・各マニュアルを策定しているが、保護者への周知及び職員の理解が不十分である。	・訓練等を行った際は、保護者に直接様子を伝えたり、お便りではピックアップして記載したりする。 ・各マニュアルに沿った研修を強化する。また、簡易版のマニュアルを掲示して周知を図る。